

瑞穂鯉城会ウォーキングクラブ 11月定例会・紅葉の寂光院から継鹿尾山

【実施日：2021.11.18】



紅葉の寂光院境内で全員集合！見事なイロハモミジは今年のイチオシ



登山道はチャートの凹凸岩

コロナ禍とはいえ幾らか、黒雲が流れ去り少し明るい陽射しが見えてきました。

油断はできませんが、そんな気持ちの会員の方が今回も沢山参加していただきました。

名鉄金山駅に男性 11 名、女性 11 名の他、ゲストの女性 2 名、合計 24 名の方が、9:14 発快速特急鵜沼行きに乗車して 9:49 に犬山遊園駅で下車、僅か 35 分の電車の旅です。

改札口を敬老パス(manaka)をかざして通り抜け、東口で体調の確認や、今日のコース・市道歩きの交通安全等を説明した後、新入会員とゲストの方にご挨拶いただきました。

小春日和の穏やかな陽射しの元、風も無く気分爽快なウォーキングのスタートです。

歩き始めて直ぐに善光寺公園沿いの急登の他、犬山遊園地沿いの急登のアップダウンで、まるでジェットコースターの様な車道歩きに「こんな道なら木曾川沿いの崖っぴち道が平坦でよっぽど歩き易い」等の不満が聞こえます。途中の公園の東屋で小休止し、急遽ルートを見直し交通量は多いが、木曾川沿いに変更です。県道をしばらく行けば寂光院へ辿る谷沿いの静かな遊歩道、やがて寂光院の入口参道に至り、丁度真っ盛りの紅葉はイロハモミジ・ハウチワカエデ等に見とれました。参道入口は駐車場も満車、観光客も大勢見えて賑やかな老若男女の紅葉狩り風景です。

ところで、寺のHPよれば白雉 5 年(654 年)に孝徳天皇の勅願により南都元興寺の道昭和尚の手によって七堂伽藍が建立された古刹で、

清州城の鬼門に当たる当寺は、織田信長の庇護を受け 50 余町歩を拝領し、現在も 10 万坪の地領を有しています。

また、この寺は真言宗智山派で、山号は継鹿尾山(つがおさん)と言われ、別名「尾張のもみじ寺」と言われており、御本尊は千手観音の秘仏で 60 年毎に御開帳があるそうです。

良く整備された 300 段余りの急な石段には手摺の親柱に七福神の石像が鎮座しており、両側の苔むした法面には古色のお地藏様が多数祀られています。

それらを眺めるのも虚ろに、心臓が早鐘を打ち、息を弾ませながら上ります。

ようやく本堂に辿り着き、周りの色鮮やかな紅葉や、巨木のコウヤマキに見とれました。

見晴らしの良い展望所には「織田信長も眺めた尾張美濃」の看板があり、奥には弘法大師の大きな旅姿の石像がありました。

本堂参詣や展望を堪能してから集合写真を撮った後、皆さんの体調をお聞きして、このまま小野洞砂防公園に直行する方と、継鹿尾山に登頂される方との二つのグループ分けです。男性 10 名と女性 3 名の 13 名の有志の方が継鹿尾山にチャレンジです。

寂光院を通り継鹿尾山を經由して鳩吹山に至る東海自然歩道は良く整備されており、ハイカーに人気のルートです。チャートの岩は地層の割れ目と凹凸で大変歩き難い上、ザレ場の道は日頃余り歩かない方には大層厄介な道で足腰に負担を掛ける事になりました。



絵看板の案内図で皆さんコースの確認



継鹿尾山展望台のチャレンジャー

40分程の苦しい上りで、やがて山頂に至り東屋展望台で小休止です。相談役から想いも掛けない蜜柑の差し入れ、喉の渇きもあり美味しくいただきました。感謝です。

余り時間もないので、展望も山座同定もそこに別れたグループの待つ小野洞砂防公園に向かって下山です。

尾根稜線では一号・二号の大石の集積した古墳を脇見し、険しい山道の下りは展望を楽しむ余裕もありません。

ザレ場の山道は車石に滑らない様に慎重と緊張で注意しながら下降します。

やがて山道は緩くなり尾張パークウエーの立体交差橋に至り、ホットー息、ヤレヤレ感で解放されました。

小野洞砂防公園で別れたグループに合流して12時半過ぎにランチタイムになりました。小生は何時ものようにカロリーメイトと缶コーヒーで済ますつもりが、以外や令夫人からおにぎりをいただき、また他の婦人からもお菓子をいただき、まるで日本モンキーセンターのお猿になりました。

その後、ひばりヶ丘公園に寄り広い芝生広場で大休止です。後は山里の生活道路をのんびり下る散策ハイク、富岡前駅からは14:00中部空港行きに乗車し全員無事に帰路に着きました。小生は本願寺町の我が家に15:20に帰宅、スマホの歩行計は15,600歩・歩行距離は10.9kmでした。

(撮影 30期北川健一・文 31期宮田いわを)



クラーク博士「高齢者は大志を抱け」



小野洞砂防公園で、1+1=2の掛け声



ひばりヶ丘公園の芝生広場で食後の昼寝



帰路の下りのはのんびりハイクで富岡前駅へ